

りゅうづう



大鳴門シルバーハイツ季刊誌

令和元年秋号

介護老人保健施設
大鳴門シルバーハイツ
鳴門市鳴門町土佐泊浦
字高砂50-3
TEL 088-687-0582
FAX 088-683-6277



施設長
門家 純一

ご挨拶

昨年より建築を進めて参りました「大鳴門シルバーハイツ」は、令和元年八月十一日をもちまして、新築移転することができました。この間、皆様方には多大なご迷惑とご理解をいただきましたこと、深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、老人保健施設の役割の中には、リハビリテーションを中心に「家庭復帰」が最大の使命でありました。しかしながら近年の高齢者の状況は、超高齢化が進み、合併症を抱えさらに認知症の高齢者が急増し、当初の役割である「家庭復帰」は困難を極めています。当初の役割である「家庭復帰」は、ここに来て役割から目標へと変貌する

時期に来ているのではないでしょうか。特に当施設では、認知症専門棟を配置している関係で、強くそのように感じています。地域包括ケアを中心とした、在宅機能をどのように活用して運営するのかが、今後の課題である事は間違いないと思います。地域の皆様に信頼され、気軽に安心して利用していただける施設を目指したいと思っております。

最後になりますが、入所者の皆様方に対し、尊厳を大切に、心に余裕を持った温かい看護や介護が提供できるように、職員一丸となって努力して参りたいと思っております。

これまで同様にご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

楽は苦の種 苦は楽の種



鳴門市敬老お祝い訪問

九月三日、鳴門市長が訪問してください。敬老のお祝いをしてくれました。シルバーハイツには百歳を超えられた方が四名いらっしゃいます。「おめでとうございます、益々お元気で長生きしてください」と声をかけていただく、「ありがとう」と、嬉しそうに笑顔を見せてくれました。

当施設での最高齢の方は今年の十一月で百七歳になります。「歌を歌って」と言うと、童謡の夕焼け小焼けを歌ってくれます。現在、世界最高齢は日本の方で田中力子（たなかかね）さん（一九〇三年明治三十六年）一月二日生まれ、百十六歳だそうです。皆さん世界最高齢を目指して頑張りましょう。



日下 サダコ様
大正元年11月19日生
106歳



山田 ユキエ様
大正7年2月7日生
101歳

若山 ミ子コ様
大正6年11月18日生
101歳

藤井 幸子様
大正6年2月11日生
102歳



令和元年8月11日に新築した 大鳴門シルバーハイツ竣工写真

私たちがご案内します



きれいな
施設が
できたねー



リハビリは
私たちに
任せてね



こども園いずみ 敬老訪問

九月十一日は、一年に一度の楽しいこども園いずみの可愛らしい子供たちが敬老訪問に来てくれました。
一生懸命に練習してくれた歌や踊りなどを披露してくれたり、ゲームや玉入れを一緒に楽しみ大盛り上がりでした。
最後には小さい手で一人一人に肩たたきもしてくれました。
入所者様はこの日をとても楽しみにしていて、普段では滅多に見ることのない程の笑顔を見せてくれました。私達も子供たちの笑顔とお年寄りの笑顔に癒やされました。



入所者の皆様と一緒に玉入れをしました

最後の締め挨拶は私に任せてと美好さん子供たちに囲まれて、素晴らしい挨拶でした



「おじいちゃん・おばあちゃんいつまでも元気でいてね」
「ありがとう」



「トントントントン」可愛いもみじの手で、肩たたきをしてくれました

新入職員紹介



看護 亀井 有美

八月より大鳴門シルバークラブで働いております亀井有美です。看護師として働くのは四年ぶりですがまだまだ未熟な面もありますが成長していければいいなと思っております。よろしくお願ひいたします。

秋といえは

簡単茄子レシピ紹介



今日は秋茄子を美味しくいただく超簡単レシピをご紹介します。と思います。

①茄子を好きな大きさに切る

②ごま油で茄子をしんなりするまで炒める。

③お皿に盛り、ポン酢、ねぎ、しょうがを乗せる。

茄子を炒めてポン酢をかけるだけというシンプルなレシピですが、とても美味しいので一度皆様作ってみてはいかがですか。
茄子以外に秋は美味しい食材がたくさんあると思いますが、食べ過ぎには注意しつつ、食欲の秋を共に楽しんでいきましょう！

編集後記

秋の声が聞こえる美しい季節となりました。皆様、どんな秋をお過ごしでしょうか。

秋と言えば読書やスポーツの秋などといいますが、やはり楽しみなのは食欲の秋です。入所者様の一番の楽しみも食事ではないでしょうか。バランスよく、栄養を摂取すること健康に繋がります。安定した生活を送って頂けると幸いです。当施設は盛夏の頃、皆様のご協力のもと、新施設への引っ越しがようやく完了できました。

最初は入所者様も職員も不慣れた生活の中、右も左も分からず戸惑うばかりでしたが、最近段々と落ち着いてきたところです。まだ課題な点もたくさんありますが、入所者様の心身のストレスとならない様に職員一同気を引き締め、御家族の皆様にも安心して頂けるよう、これからもより一層努力して参りたいと思っております。

秋季季刊誌担当

- | | |
|-------|-------|
| 中阿地由美 | 看護 |
| 長洲 香 | 看護 |
| 曾川 美紀 | 事務 |
| 仁木 舞 | 作業療法士 |
| 谷 万紀 | 介護 |
| 小川 晃司 | 介護 |